

書 評

天 文 学

大澤清輝著

(東京教学社, 1854 円)

著者大澤清輝は元東京天文台長, 近年千葉大学等で行った一般天文学の講義をもとに, 最新の知識までよくかみくみだいて簡潔に正味 113 頁にまとめた大学教養部及び学部レベルの教科書である。

太陽, 太陽系に始まり, 恒星, 連星と変光星, 電波と X 線, 銀河系, 宇宙とくるが, 最後に時・暦法があって, 付録に天体力学, 恒星内部構造論, プラズマ, 一般相対論, 位置天文学が 25 頁ほどで簡潔にまとめてある。

誰にでもよくわかる, しかも最先端まで透明に見通した叙述は, 勉強家である著者の特色である。大学の教科書として書いてはあるが, 専門の研究者が座右に置いて大変便利な本でもある。図版も 1989 年 1 月 30 日の特大プロミネンスから, 計画中の日本の 8 m 望遠鏡の予定図, ビーブルスによる銀河 100 万個の天球分布図など新しい。最新の宇宙論と古典的な位置天文が隣り合わせになっているのが大変新鮮に感じられる。

(海野和三郎)

「科学の極相」思考の対比法

法橋 登

(哲学書房, 1990, 2500 円)

著者 法橋 登は天才である。私のエスティメーションでは彼と正木 功, 松田卓也, 渡辺正明の四人の異質の天才が 5 年協力すればバイオコンピューターでノーベル賞が取れるはずなのである。彼は時々反粒子の世界へ座標変換して時間を反転し, 老子やナーガールジュナや朝

永振一郎と交流する陽気な仙人である。

本書はその彼が, 彼の宇宙思考の遍歴を誰にでも判るように(?)書いてくれた自叙伝(?)である。脳の機能の進化の話がある, 宇宙と素粒子ゲージ場の話がある。量子力学と因果律の話がある。この本を読むと, 手塚治虫の「火の鳥」を見るようである。法橋の武器は物理学なかでも量子力学などの基礎理論であるが, 因果論と目的(宿命)論の対立にものを言わない量子力学にあきたらず, それで脳や宇宙や経済学や地球外文明の話をする。だからそれら全てが有機的に関連し, 全体がフラクタル構造をもつ体系をなしている。しかも, 各部分を取り出してもネイチャーなどの国際オピニオンメイキングの雑誌にのる創造的内容を持っているから立派である。

日本には知性がないなどと誰が言うのであろうか。世界の人がこの書を読んで天啓を得たならば, 人口・エネルギー・環境の 3 難問に身動きのとれぬ 21 世紀の世界に道が開けようというものである。

ちなみに, 法橋 登には, 太陽電波の発生機構の論文(PASJ) やワームホールのある宇宙論など天文の論文も何篇かある。  
(海野和三郎)

☆ ☆ ☆

訃 報

本会賛助会員として, 年会開催等かずかずのご援助をいただいております金光教教主の金光鑑太郎氏には, 去る 1 月 10 日午後 5 時 30 分, 心筋梗塞のため, 岡山県浅口市郡金光町の金光病院において逝去されました。享年 81 歳。

謹しんで哀悼の意を表するとともに, 会員の皆様にお知らせします。

1990 年 11 月の太陽黒点 (g, f) (国立天文台)

1	8,	103	11	22,	181	21	—,	—
2	6,	128	12	16,	266	22	6,	189
3	8,	56	13	15,	152	23	5,	110
4	—,	—	14	12,	164	24	6,	88
5	13,	207	15	7,	147	25	6,	97
6	20,	233	16	6,	141	26	8,	169
7	20,	328	17	8,	77	27	9,	136
8	18,	270	18	6,	136	28	—,	—
9	—,	—	19	—,	—	29	—,	—
10	9,	226	20	—,	—	30	—,	—

(相対数月平均値: 162.1)

1990 年 12 月の太陽黒点 (g, f) (国立天文台)

1	13,	86	11	—,	—	21	—,	—
2	14,	42	12	12,	168	22	6,	123
3	18,	106	13	12,	138	23	11,	73
4	19,	133	14	8,	101	24	7,	149
5	18,	118	15	3,	67	25	10,	115
6	17,	152	16	4,	114	26	8,	117
7	18,	195	17	5,	171	27	9,	101
8	16,	290	18	5,	219	28	10,	129
9	—,	—	19	6,	211	29	9,	99
10	17,	272	20	8,	176	30	10,	89

(相対数月平均値: 146.3)

31 8, 64